

伝統医学は人類が自然の摂理と天然の恵みを巧みに利用し、疾病の予防、治療にあたってきた経験知の集積です。和漢医薬学総合研究所は、現代の先端科学技術を駆使して、和漢薬をはじめとする伝統医学や伝統薬物を科学的に研究し、東洋医薬学と西洋医薬学の融合を図り、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人的医療の確立に貢献することを使命として、①天然薬物資源の確保と保全、②和漢医薬学の基礎研究の推進と東西医薬学の融合、③漢方医学における診断治療体系の客観化と人材の育成、④伝統医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成 の重点課題を設けて、研究を推進してきました。

近年、世界的に問題になっている高齢化の進行、多因子性疾患の増加、及び天然資源の枯渇に鑑み、本研究所は新たに重点研究プロジェクト（高齢者疾患対策研究、未病・予防先制医療研究及び資源開発研究）を定め、推進し、その成果を社会実装するための組織へと、令和2年4月に改組しました。研究開発部門では5分野（資源開発、病態制御、複雑系解析、未病、国際共同研究）を設置し、それらが連携して、臨床研究への橋渡しを目指した、新規メカニズムに基づく創薬基盤の構築などに関する基礎研究を行います。さらに、臨床応用、産官学連携の2部門では、本学附属病院や企業と協力して臨床試験や医薬品候補の発掘を推進します。加えて、漢方医学教育を実践できる教員の育成とその教育研修システムの確立を目的とした和漢医薬教育研修センターを立ち上げました。これらの3部門1センターが互いに連携し、東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学を創生して、健康長寿社会の形成に貢献することを目指します。

今回の年報は新組織体制での初めての活動報告となります。また令和2年度でも前年度から引き続き重点研究課題に係る公募型共同研究を実施しましたので、この成果についても収載しました。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、我々の生命や生活が脅かされる状況が続いています。これに対応するべくワクチン接種と並行して、早急に新型コロナウイルス感染症に対する予防・治療薬の開発も求められています。我々人類が健康長寿社会を実現するためには、これまでに長きにわたり持続して保健医療に用いられてきた歴史を持つ伝統医薬学を活用することが肝要と考えられます。その実現のため、重要先端の生命科学・自然科学や科学技術を駆使して科学的エビデンスに基づく研究を念頭に、和漢医薬学領域と異分野領域との融合型共同研究を行うことが重要です。この方針の下、教育研究を進める所存ですので、皆様方の一層のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

令和3年4月1日

和漢医薬学総合研究所 所長 早川芳弘